

## 第 3 回・4 回での「総合的な学習の時間」に係る議論の整理

## 議論の到達点

教員のカリキュラム開発能力の向上や各教科との相互関連等、「総合的な学習の時間」を進めるに当たってのガイドラインを作成するなど、学校への支援を強化する必要がある。

## 総合的な学習の時間における現状と課題

総合的な学習の時間は、児童生徒が「確かな学力」を身に付ける意味で大切な学習である。

総合的な学習の時間の対応を各校に任せると取組内容にばらつきが生じる。各学校で指導計画等を作るには、多くのエネルギーを要する。

学校でなければできない価値のある総合的な学習の時間のテーマという視点が欠けている。

中学校において、総合的な学習の時間と選択教科を合わせると、総授業時数の約 1 / 4 になり、生徒の進路実現に必要な学力の充実・向上に課題がある。

総合的な学習の時間に係る学習成果の評価が不十分である。総合的な学習の時間による指導によってどのような力が伸びたのか、併せて、教科の学力向上が図られたという検証が必要である。

## ガイドラインの必要性と求めるもの

地方分権における学校の自律性の理念は重要だが、教育実践を推進する上での経過措置としてのガイドラインが必要である。

児童生徒全体の学力の向上を考えた場合、ガイドラインや指針となるものが必要である。

教科との関連について強化するような指針やガイドラインが必要である。ガイドラインは、ベーシックな基準として作成し、具体的な肉付けは各学校がおこなうものである。

作成にあたり、実践事例を活かす方法も考えられる。

教員のカリキュラム開発能力のレベルアップのため、ヒントになるものが必要である。